地理歴史科(地理)学習指導案

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　日時：平成２７年12月25日（金）１校時

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　場所：沖縄県立球陽高校社会科教室

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　対象：２年７組　33名

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　授業者：宮城　和人　印

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　指導主事：比嘉　孝司

１．単元名：第Ⅱ部現代世界の系統地理的考察　３章人口，村落・都市　１節世界の人口

２．単元目標

(１) 世界の人口、都市・村落に対する興味・関心を高め、様々な地理的問題に対して意欲的に追究し、捉えようとする態度を養う。【関心・意欲・態度】

(２) 世界の人口、都市・村落について、分布や動向などを系統地理的に考察し、人口、居住・都市問題の概要を把握させる。また、グループ学習やワークシート等を活用し、思考や判断の過程や結果を適切に表現できるよう指導する。【思考・判断・表現】

(３) 世界の人口、都市・村落に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりする技術を習得させる。【資料活用の技能】

(４) 世界の人口、都市・村落について、系統地理的に捉える視点や考察法を理解し、その知識を身につけさせる【知識・理解】

３．教材

(１) 教科書：「新詳地理Ｂ」帝国書院

(２) 副教材：「新詳高等地図」帝国書院、「最新地理図表GEO（ジオ）」第一学習社

(３) 教具：国土地理院発行地形図２枚（昭和49年、平成17年発行）、旧陸軍省発行地形図（大正８年発行）、ワークシート、エキスパート資料（３種類）

４．単元について

(１) 教材観

　　人口問題は公民科（現代社会）でも取り扱うテーマであり、現代の国際社会において早急な解決が望まれる課題の１つである。同問題を学習するに当たっては暗記や網羅的な知識の習得以上に論理的な思考力や様々な事象を関連づけて多面的に考察する力が必要になる。人口移動の問題では、ある地域の人口を送り出す力と、他の地域の人口を引きつける力がうまく作用すると、２つの地域の間に人口移動が生じる。人口を送り出す力や引きつける力には経済的要因や文化的要因、政治的要因などがあるが、とりわけ経済的要因による人口移動は次節の学習内容（３節「村落と都市」、４節「都市・居住問題」）とも密接に関連している。後に学習するこれらの単元の内容を踏まえた上で、人々が移住する背景について産業の発展と経済的要因から理解が深まるよう指導していきたい。

(２) 生徒観

　　球陽高等学校は各学年とも国際英語科４クラス、理数科４クラスで構成され、沖縄県中部地区の進学校である。ほとんどの生徒は大学への進学を希望しており、基本的な学力が身についている。学習に対して前向きな生徒が多く、センター試験や定期考査等で高い得点を取得する生徒も多い。その一方で、地理の授業においては地誌などの暗記が主となる分野は得意であるが、地図や資料から読み取れる事柄を既習の学習内容と関連づけて考察することや自分の考えや意見を論理的に述べることを苦手とする生徒が少なからず認められる。

(３) 指導観

　　国内外において見られる人口移動の様態は様々である。国境を越えた人間の移動を歴史的に概観してみると、信仰の自由を求めてアメリカに移り住んだピューリタンのような宗教的移住、シベリアやオーストラリアなどで強制的に行われた政治的移住、華僑や日系移民のような経済的移住などがある。今回の授業では沖縄県で過去に起こった人口移動を取り上げ、その結果として生じた本校周辺地域（中部地域）の都市化について学習を深めさせたい。指導に当たってはグループ学習を実施し、生徒が多様な考えや意見を述べあう中で一定の解にたどりつけるよう資料作りを工夫した。グループ学習では知識構成型ジグソー法を取り入れ、「米軍基地の形成」、「沖縄県の人口」、「沖縄県の産業」の３つの異なる視点から学習テーマについて理解を深められるよう指導していく。

５．指導計画

(１) 第１時 人口爆発①

(２) 第２時 人口爆発②

(３) 第３時　人口ピラミッド

(４) 第４時　世界の人口移動

(５) 第５時　発展途上国と先進国の人口問題②

(６) 第６時　先進国における少子化の要因

(７) 第７時　日本の人口問題①

(８) 第８時　日本の人口問題②

６．本時（第８時）のねらい

(１) 大正８年に測量・発行された旧陸軍省作成の地形図と昭和49年と平成17年に測量・発行された国土地理院作成の地形図を比較させ、沖縄県中部地域の都市化が急速に進んだことを確認させる。

(２) ジグソー法を用いたグループ学習を行い、米軍基地の形成が沖縄経済に与えたインパクトと米軍統治が沖縄の産業に及ぼした影響、それらの結果として沖縄県で生じた人口移動について学習する。グループによる話し合いを通して以上の３つの社会事象を相互に関連づけながら、本校周辺地域の都市化の原因を考察する。

(３) それぞれのグループが導き出した意見を全体で発表させ、異なる考えや多様な価値観があることに気づかせる。グループ発表の場では結論を得るに至った根拠を論理的に示すよう指導する。

７ 評価規準

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| Ａ　関心・意欲・態度 | Ｂ　思考・判断・表現 | Ｃ　資料活用の技能 | Ｄ　知識・理解 |
| 世界の人口、都市・村落に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 | 世界の人口、都市・村落について、分布や動向などを系統地理的に考察し、人口、居住・都市問題を大観している。また、思考の過程や結果を適切に表現している。 | 世界の人口、都市・村落に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 世界の人口、都市・村落について、分布や動向などとともに人口、居住・都市問題や、系統地理的に捉える視点や考察法を理解し、その知識を身に付けている。 |

８．本時の指導（８時間目／８時間目）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | 具体的評価 |
| 導入10分 | ・出席確認・大正８年に測量・発行された旧陸軍省作成の地形図を配布し、前時に配布した昭和49年および平成17年に測量・発行された国土地理院作成の地形図と比較させる。・本時の課題（球陽高校周辺の都市化の原因は何か）を明示。・課題について個人で予測させる**球陽高校周辺（沖縄県中頭地区）の都市化の原因は何だろう？** | ・欠席者の氏名を確認する。・太平洋戦争の前後で沖縄県中部地域の土地利用が劇的に変化している様子を確認させる。その際、細かい変化に目を向けさせるのではなく、戦後に沖縄県中部地域において急速な都市化が進行した事実に注目させる。・グループ学習の概要と注意事項を説明。・ワークシートに個人の考えを書くように促す。考えが思い浮かばない場合は未記入でも可とする。 | ・活動観察 |
| 展開Ⅰ15分 | エキスパート活動* 資料を読んで課題に対する問をグループで考えさせる。

①資料Ⅰ「米軍基地の形成」②資料Ⅱ「沖縄県の人口」③資料Ⅲ「沖縄県の産業」 | ・全ての生徒がエキスパート資料についてグループで話し合い、後に別のグループで説明しなければならないことを説明する。各人が責任をもってグループ活動に参加するよう促す。・意見を交換する際には考えの根拠を大切にするよう指示を与える。 | ・活動観察・与えられた３つの資料の意味を読み取ろうとしている【関心】・資料を相互に関連づけて考察している【思考】 |
| 展開Ⅱ20分 | ジグソー活動・資料Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを読んだ生徒たちで新たなグループを作り、再度課題について考える。・グループで課題に対する答えをまとめてワークシートに記入する。クロストーク・グループの意見を発表させる。 | ・エキスパート資料の説明で意味が分からない箇所があれば積極的に質問するように促す・全ての生徒が担当する資料について必ず説明するよう注意を与える。 | ・活動観察・球陽高校周辺地域の都市化の原因について思考し、文章にまとめている【思考】 |
| まとめ５分 | 本時の振り返り・沖縄経済に占める米軍基地関連収入が低下している背景について、観光産業の発展にふれながら説明する。・アンケートの実施。 | ・本時でねらいとする思考力が働いたかどうかを検証する資料とするため、生徒には考えたことをワークシートにしっかり記入するよう指示する。・アンケートを回収する時間がなければ放課後までに提出するよう指示する。 | ・活動観察・考えたことをワークシートに記述している【表現】 |

準備物：地形図３枚（大正８年、昭和49年、平成17年発行）、ワークシート、エキスパート資料（３種類）